日本共産党
名古屋市議団
市政ニュース
2019年10月28日
No.33
http://www.n-jcp.jp
名古屋市中区三の丸三丁目１－１
電話052(972)2071　FAX052(972)4190
発行・日本共産党名古屋市会議員団

10月11日 財政福祉委員会（敬老パス制度について）

敬老パス 名鉄・近鉄・ＪＲへの対象拡大を実現！
市民の粘り強い運動と市議団の論戦の成果
～市議団は利用回数の上限設定をしないよう要求～

10月11日の市議会財政福祉委員会で、敬老パスについて、2022年2月から名鉄、近鉄、ＪＲでも利用できるようにする方針が示されました。

これは、民間鉄道への利用拡大を粘り強く求めてきた市民の運動と度重なる市議団の論戦の成果です。

同時に、民間鉄道への拡大に必要な財源を利用上限回数の導入でまかなう提案がされました。

利用回数の上限設定について、岡田ゆき子議員は、敬老パスの本来の目的を損なう懸念を指摘しました。

名鉄・近鉄・JRに対象交通を拡大

新たに敬老パスが使えるようになるのは、ＪＲ・名鉄・近鉄（バスを除く）の名古屋市内の運行区間です。乗車駅・降車駅共に市内の駅に限られます。

利用者は敬老パスにチャージした現金等でいったん運賃を支払って乗車し、後から市が運賃相当額を２カ月ごとに利用者に返還するという方式です。

なお、市内を走る民間バスへの拡大は、「今後、検討したい」と答えました。

また、障害者が利用できる「福祉特別乗車券」も民間鉄道に拡大されますが、利用限度は設定されません。

民間鉄道への拡大内容

適用範囲	名鉄、近鉄、JRの市内運行区間 ※乗車駅・降車駅共に市内の駅に限る ※民間バスは除く
適用方法	敬老パスにチャージした現金等により乗車した実績を2カ月ごとに集計し、運賃相当額を返還
交付者数増加見込み	約1万1千人
拡大に伴う事業費推計	8億9千万円
開始時期	2022年2月開始を目標

年間700回の利用限度を提案

健康福祉局は、民間鉄道への拡大と同時に、利用限度回数を設定し、設定回数は、700回、800回、900回の三案を例示しました。

回数は、地下鉄は改札を出るたびに1回、市バスはバスに乗車するごとに1回とカウントされます。

利用回数の上限は「年700回が妥当」と答弁しました。700回とは、１週間あたり13回。市バスと地下鉄を乗り継いで利用する場合、往復で4回の利用になるため、事実上週３日までの利用となります。

利用限度回数の設定内容

考え方	1年間の利用に上限回数を設定し、上限回数到達後、残り期間の利用を停止
回数の数え方	地下鉄は改札を出るたびに1回とカウント。市バスはバスに乗車するごとに1回とカウント
上限回数設定案	年700回、800回、900回の三案 ※健康福祉局は700回を想定
700回の利用イメージ	バスと地下鉄を乗り継いで利用すると、週3日で624回、週4日で832回
開始時期	2022年2月開始（対象交通拡大と同時）

年度内に条令改正、2022年2月から実施

健康福祉局が示した名鉄・JRなどへの対象拡大までのスケジュール案は、次の通りです。

実施スケジュール案

2019年度	条令改正
2020年度	各種システム改修等対象交通拡大準備
2021年度	敬老パス利用者・未利用者への周知
2022年2月	対象交通拡大・利用限度設定の開始

利用限度設定は敬老パスの趣旨を損なう

利用回数に上限を設けると、敬老パスの利用を抑制しようとする心理的圧力になります。財政福祉委員会での岡田ゆき子議員の追及に、健康福祉局は心理的に利用抑制が起きることを否定できませんでした。利用上限回数の導入は、高齢者の社会参加を支援する敬老パスの目的を損ないます。

名鉄・JRなどへの拡大に必要な事業費は8.9億円。金持ち優遇の市民税減税等を見直せば十分に財源は捻出できます。

共産党市議団は、利用限度を設けず、早期に名鉄・JRなど民間鉄道・バスへの拡大を求め、みなさんと力を合わせて奮闘します。

敬老パスに関するご意見をぜひお聞かせください。